施工説明書

INAX

キッチン用タッチレス水栓
（浄水器ビルトイン型）

JF-NA461S型

工事店様へのお願い
貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

1. 施工の前に

安全上のご注意

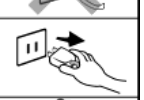
●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
●いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

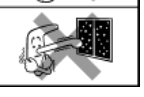
警告 ……「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
注意 ……「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
⚠ ……「注意しなさい！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

(禁止) ……「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
(分解禁止) ……「分解してはいけません！」
(水場禁止) ……「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」
(指示) ……「指示通りにしなさい！」（一般的な行動禁止記号です。）

⚠ 警 告

(分解禁止)	**修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。** ※発火、感電したり、異常作動してケガをすることがあります。	
(禁止)	**水につけたり、水をかけないでください。** ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	
(水場禁止)	**バスルーム等の水がかかる所や、表面に水滴を生じるような湿気の多い場所では使用しないでください。** ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	
(禁止)	**電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っぱったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挟み込んだりしないでください。** ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因になります。	
(禁止)	**電源プラグを濡れた手で触れないでください。** ※感電の原因になります。	
(禁止)	**電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。** ※発火、ショート、感電の原因になります。	
(禁止)	**交流100V（50/60Hz）以外では使用しないでください。** ※発火、ショート、感電の原因になります。	
(禁止)	**直流電流や異電圧の電源での使用は避けてください。** ※火災の原因になります。	
(指示)	**電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。** ※電源プラグにホコリがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。	
(指示)	**電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。** ※発火、ショート、感電の原因になります。	
(禁止)	**水道水以外は使用しないでください。** ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因になります。	
(禁止)	**湯水を逆に配管しないでください。** ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
(指示)	**ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。** ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
(禁止)	**給湯機器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。** ※水栓が破損し、ヤケドや家財などを濡らす恐れがあります。	
(指示)	**フレキホースの差し直しやストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。** ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
(禁止)	**トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンザー、クレゾールを使用しないでください。** ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。	

⚠ 注 意

(禁止)	**衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。** ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因になります。	
(指示)	**お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。** ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

本製品の仕様と条件

電源	AC 100V 50/60Hz	消費電力	常時：1.5W 作動時：3.0W
給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水（※1）
使用環境温度	1～40℃		
給水給湯接続	G1／2		
圧力条件	0.06MPa(流動圧)～0.75MPa(静水圧)		
感知距離	約40mm(グレーカード：80mm角)	感知エリア幅	約φ5mm
電源コード長さ	1.8m		
取付条件	水栓取付穴：φ37±2mm、カウンター厚：5～30mm		

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。

ガス給湯器(比例式制御式：16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A＋0.07MPa(流動圧)　※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最高圧力	0.75MPa(静水圧)

測定条件は次の通りです。
●レバーハンドルは全開。
●給水温度5℃、吐出温度42℃(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
●給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。
●ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.07MPa(流動圧)
最高圧力	0.75MPa(静水圧)

●給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

●給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20～0.34MPa)に減圧してください。
●給湯器に蒸気は使用できません。
●給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
●不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

●取付けには専用工具（KG-1またはKG-2）またはソケットレンチ（対辺24）、プライヤー、マイナスドライバーが必要です。

止水栓を設けてください。

●取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓(別売)を設けてください。
●使い勝手や性能発揮のために 流量調節をしてください。 特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

●取付後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

●カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。

配管・配線について

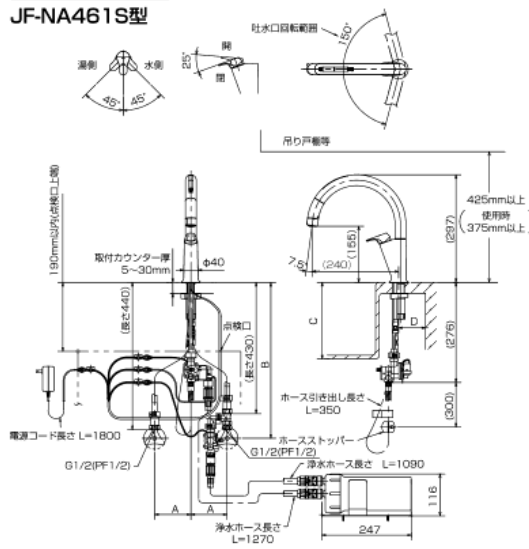
●給水は水道水に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
●給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
●給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
●ACアダプターは必ず指定のものをご使用ください。
●万が一の危険防止の為、電源の一次側に1か所漏電遮断器を設置してください。
●電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。（現場手配）
●電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
●コンセントは1口タイプをご使用ください。
●コンセントは、ACアダプターの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
※隠蔽部には設けないでください。
●水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
●必ず 配管中の異物を完全に洗い流してください。

その他の注意点

●商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
●開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
●センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
●インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤作動する場合があります。
●直射日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因になります。

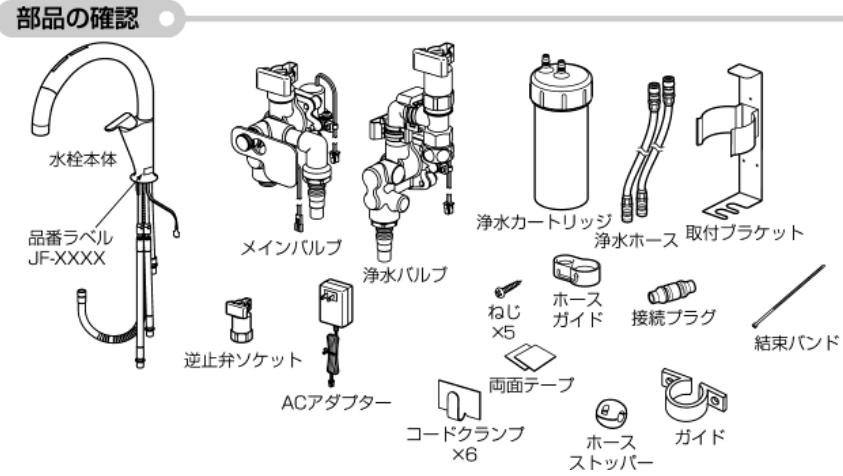
施工完了図

JF-NA461S型



●品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
●取付穴：φ37±2mm、カウンター厚：5～30mm
●A=100 $^{+25}_{0}$mm、B=380 $^{+20}_{-10}$ mmにしてください。
●シンク深さ（厚み含む）C寸法220mm以下、かつ取付穴中心からシンク裏背面D寸法60mm以上にしてください。
●コンセントは電源コードの届く範囲で、床面より高く水のかからない位置に設置してください。
●水栓取付面から上方425mmより低い位置に棚や物がある場合は施工できません。
●使用時には、375mm以内に他器具（昇降キャビネットの取っ手を含む）のないようにしてください。

部品の確認

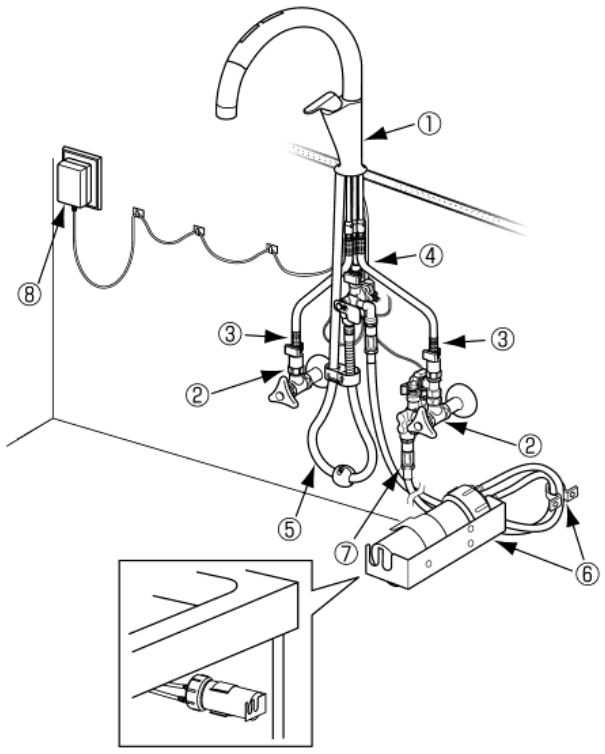


株式会社 INAX　●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センター商品相談窓口
ナビダイヤル TEL 0570-017173

受付時間　平日　9:00～18:00
土日・祝日 10:00～18:00
（年末年始、夏期休暇は除く）

※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などでご利用になれない場合があります。
TEL 0562-31-0793 をご利用ください。

2. 施工手順

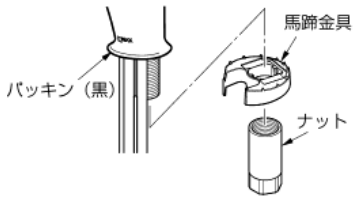


①水栓の固定
②逆止弁ソケット・浄水バルブと止水栓の接続
③給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続
④ホースとメインバルブの接続
⑤ホースの収納性の確認
⑥取付ブラケット・ガイドの取付け
⑦バルブと浄水ホースの接続
⑧電源部の接続

3. 施工方法

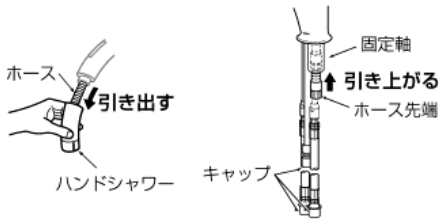
① 水栓を固定する

1 水栓本体についているナット、馬蹄金具を取り外す。



注 意 **パッキン（黒）は取り外さないでください。**
※キャビネット内への漏水の原因となります。

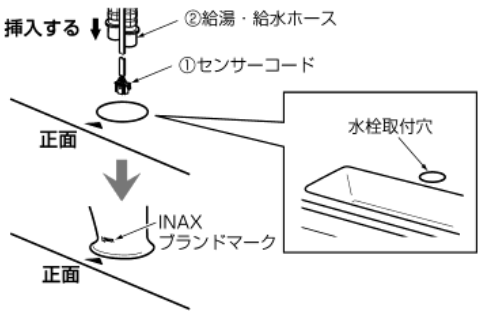
2 ホースの先端が固定軸の中にかくれるまでハンドシャワーを引き出す。



注 意
落下注意
※傷や破損の原因になります。

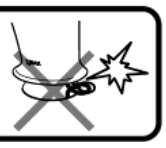
●先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。
※Oリングに傷がついたりゴミがかみ込むことで漏水の原因になります。

3 センサーコードを先に挿入し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。
INAXブランドマークが正面を向くように水栓取付穴に挿入する。

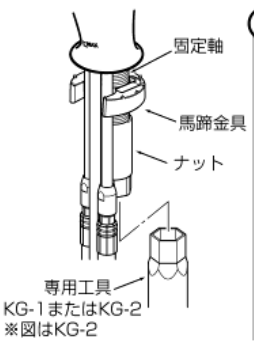


ポイント
ホースの先端が固定軸の中にかくれた状態で取付穴に挿入する。

注 意 **センサーコードをはさまないようにしてください。**
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因になります。

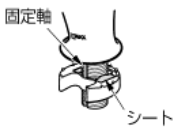


4 馬蹄金具を固定軸に挿入してナットで締め付ける。

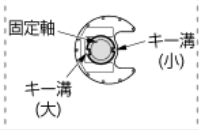


ポイント

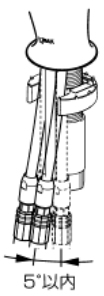
●馬蹄金具から手を離しても落ちてこないように、一時的に固定軸に引っ掛けられるようになっています。



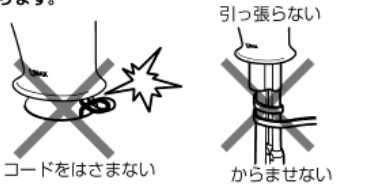
●固定軸にキー溝（大、小）があるため、馬蹄金具をキー溝に合うように取り付ける。



●専用工具が入りにくい場合は、銅管を曲げて銅管とナットの間にスペースを作ってください。（曲げ角度は5°C以内のこと）
※曲げすぎると、配管を傷つけ漏水の原因になります。



注 意 **●センサーコードをはさみ込んだり、引っ張ったり、銅管にからませないでください。**
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因になります。

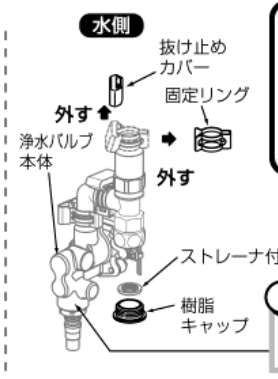


●別売の専用工具（KG-1またはKG-2）もしくは市販のソケットレンチ（対辺24）を使用してください。
※ナット締付不足によりガタつきやキャビネット内への漏水の原因となります。

② 逆止弁ソケット・浄水バルブと止水栓を接続する

湯側と水側でストレーナー付パッキンの位置が異なりますのでご注意ください。

1 抜け止めカバー・固定リング・樹脂キャップを外す。

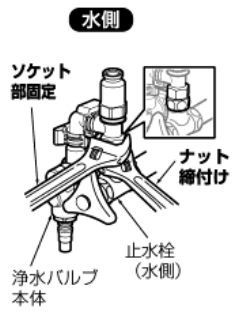


注 意
●ストレーナー付パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因になります。

●逆止弁ソケットは、製品に同梱されているものを必ずお使いください。
※漏水の原因になります。

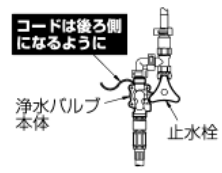
ポイント
オレンジ色のシールがあるのが浄水バルブ

2 逆止弁を湯側止水栓に、浄水バルブを水側止水栓に固定する。



注 意 **●ストレーナー付パッキンの向きに注意してください。**
※正しく取り付けられていないとゴミが詰まりやすくなり、流量が少なくなることがあります。

●右図のように、浄水バルブ本体は必ず止水栓の左側に取り付け、コードが出ている部分を後ろに向けてください。
※発火、ショート、感電、故障の原因になります。



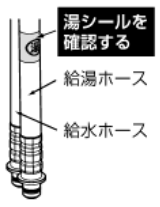
●締付けはナット部に工具を掛けて、しっかりと固定してください。
※締付けが不十分であったり強く締め付けすぎると、漏水の原因になります。

③ 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットを接続する

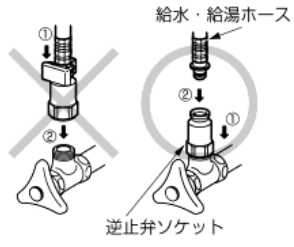
1 給水・給湯ホースを逆止弁ソケットに差し込む。

注 意 **Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。**
※漏水の原因になります。

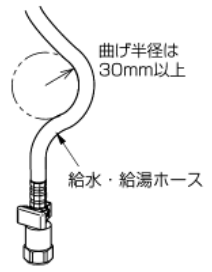
注 意
●給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。



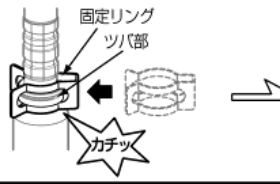
●必ず逆止弁ソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。
※漏水の原因になります。



●ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因になります。



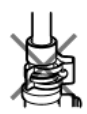
2 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



確認
給水・給湯ホースを上に引き、ソケットから外れないことを確認してください。

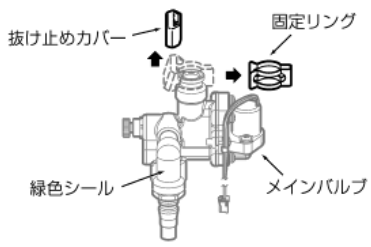
注 意 **●抜け止めカバーははめたままにしてください。**
※ リングに触れるとケガをする恐れがあります。

●固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因になります。



④ ホースとメインバルブを接続する

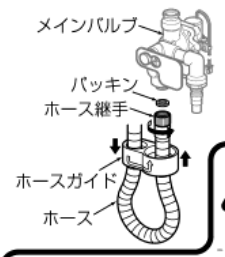
1 メインバルブの抜け止めカバー・固定リングを外す。



2 ハンドシャワーを吐水口部に収納する。

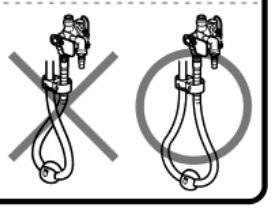
ポイント
ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させる。

3 ホースをホースガイドの矢印のとおりに通し、ホース継手をプライヤーでしっかりと固定する。

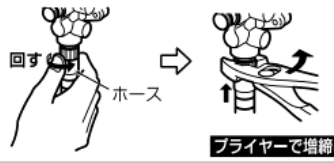


注 意 **●パッキンの紛失に注意してください。**
※漏水の原因になります。

●継手を接続する際はホースがねじれないように注意してください。
※ハンドシャワーがスムーズに引き出せなくなります。



ポイント
手でしっかり締めた後、プライヤーにて増締めする。



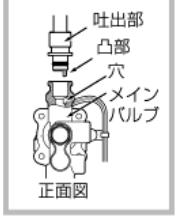
④ ホースとメインバルブを接続する　つづき

4 メインバルブを吐出管に接続する。

ポイント

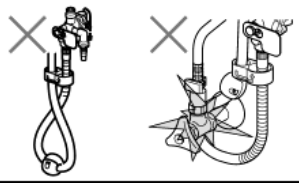
向きに注意

吐出管の凸部とメインバルブ側の穴位置を合わせる。

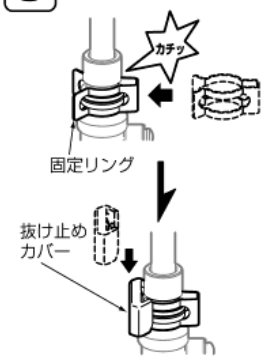


注意 ●Oリングに傷をつけたりゴミかみがないように注意してください。
※漏水の原因になります。

●メインバルブを吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をまたいで接続しないでください。
※ホースが破損し、漏水の原因になります。

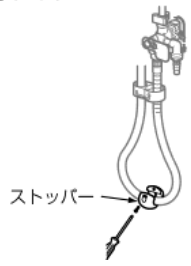


5 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



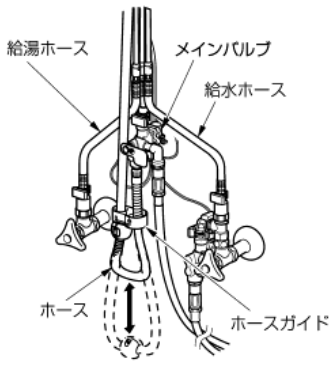
注意 固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因になります。

6 ストッパーをホースの赤色テープ部に取り付ける。



⑤ ホースの収納性を確認する

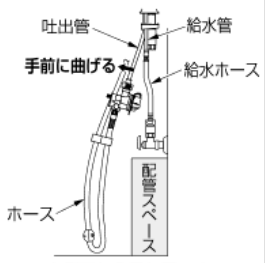
1 ハンドシャワーを出し入れし、ホースが給水・給湯ホース・メインバルブ等と干渉せずスムーズに上下に動くことを確認する。



ポイント

●メインバルブとホースが干渉する場合は、吐出管を軽く曲げて、ホースの干渉を避けてください。

●配管スペースがある場合、吐出管を手前に曲げてください。



※右側面から見た図です。

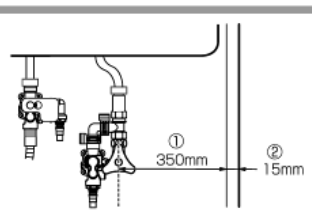
⑥ 取付ブラケット・ガイドを取り付ける

キャビネット内右側面の条件

①水側止水栓から350mm以内である

②板厚が15mm以上である

③右側面に扉や引き出し等の干渉物がない

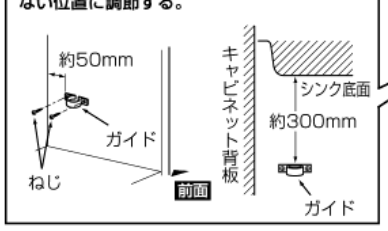


条件にあてはまる場合

1 ねじで取付ブラケットとガイドを指定の位置に固定する。

ガイドの取付け

床と平行になるように固定し、まわりに障害物（スライド収納等）がある場合は、干渉しない位置に調節する。



取付ブラケットの取付け

切りかきがある方を前面に向けて固定する。

*1:キャビネット内右側面が水側止水栓から300mm未満の場合は約30mm、300mm以上の場合は約100mm

切欠きはカートリッジ交換の際、浄水ホースを引っ掛けておくためのものです。

ポイント

ねじが差し込みにくい場合は、両面テープを一枚使用し、仮固定した後、ねじを固定する。

条件にあてはまらない場合

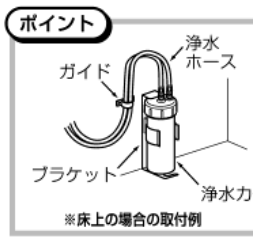
1 ねじで取付ブラケットとガイドを指定の位置に固定する。

背板に固定する場合

メインバルブ、浄水バルブから浄水ホースが届く範囲で取付ブラケットを床板上に置き、背板に固定する。
※背板の板厚が薄い場合は、両面テープで固定してください。

ポイント

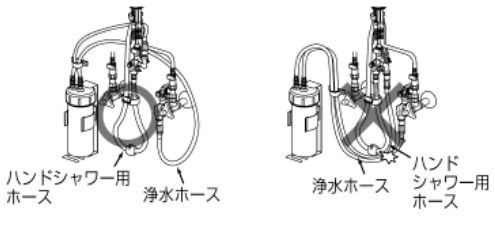
床上の背面に取付ブラケットを固定した場合は、ガイドは必要に応じて取り付けてください。



※床上の場合の取付例

止水栓よりも左に固定する場合（キャビネット内右側面に固定するスペースがない場合など）

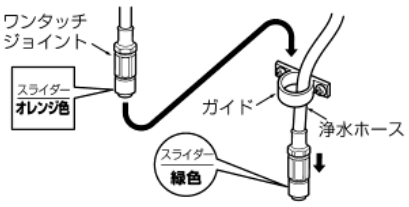
浄水ホースが、止水栓・フレキホースの背面を通るように固定する。



注意 浄水ホースが止水栓よりも上で背面を通るように固定してください。
※浄水ホースとハンドシャワー用ホースが干渉し、漏水の原因になります。

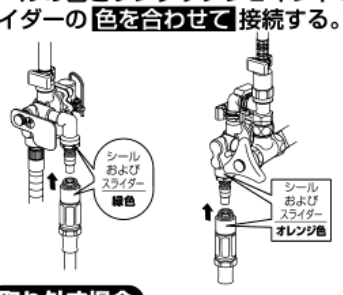
⑦ バルブと浄水ホースを接続する

1 ガイドに浄水ホースを通す。



2 ワンタッチジョイントとプラグの保護キャップを外す。

3 2本の浄水ホースをバルブに貼ってあるシールの色とワンタッチジョイントのスライダーの色を合わせて接続する。

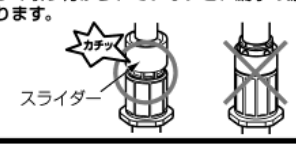


取り外す場合

ワンタッチジョイントを外すときは、スライダーを下げながら、ワンタッチジョイントを下に引っ張る。

注意 ●バルブのシールとスライダーの色を合わせて正しく接続してください。
※浄水器が正常に機能しません。

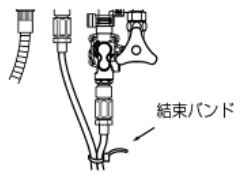
●カチッと音がするまでしっかりと差し込み、スライダーが上がっていることを確認してください。
※正しく取り付けられていないと、漏水の原因になります。



確認

ワンタッチジョイントのスライダーより下の部分を引っ張って、抜けないことを確認してください。

4 結束バンドで2本のホースを束ねる。

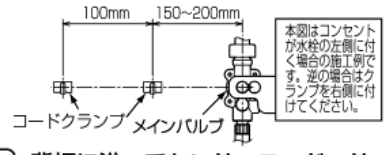


5 浄水ホースを製品に付属の接続プラグに接続する。

⑧ 電源部の接続

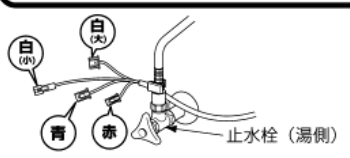
注意 濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電・故障の原因になります。

1 キャビネットの背板にコードクランプを取り付ける。（下図2か所は必ず付けてください）

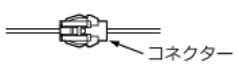


2 背板に沿ってセンサーコード、サーミスタコード、電磁弁コード2本を湯側止水栓の上から左へ通す。

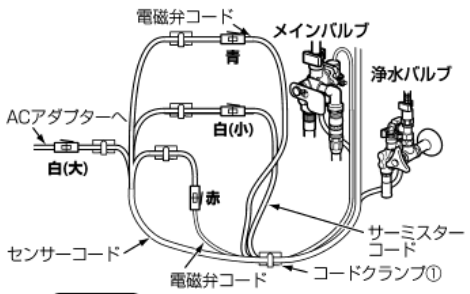
注意 コード類とホース等が絡まないようにしてください。
※発火・ショート・感電・故障の原因になります。



3 コネクターを接続する。



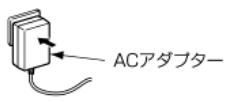
4 コードをコードクランプでキャビネット内に固定する。（5~6か所）



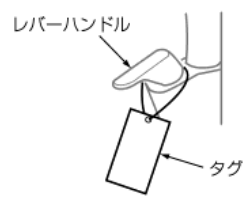
ポイント

上図の「コードクランプ①」は、4つのコネクターよりも下方に設置してください。
※漏水や結露により水滴がコードを伝った場合に、コネクターに到達しないようにするためです。

5 ACアダプターをコンセントに接続する。



6 施工完了後、タグを水栓のハンドル部に取り付けてください。



4. 施工後の調節

① 作動確認をする

1 ACアダプターがコンセントに正しく差し込まれていることを確認する。

2 メインバルブの手動弁が「左いっぱい」に回っていることを確認する。

ポイント 手動弁は、工具を使わず手でゆっくり回す。

3 止水栓を開き、レバーハンドルを上げる。

注意 高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てヤケドをする恐れがあります。

4 センサーに手をかざして、湯水センサー、浄水センサーの吐水・止水を確認する。

手をかざすと吐水

吐水時に手をかざすと止水（止水までに1~2秒かかる）

ポイント

●感知エリアは右図のようになっています。（施工完了図参照）
●約3秒間手をかざし続けると自動的に止水します。
●10分間吐水が続くと自動的に止水します。

※浄水は、レバーハンドルに関係なく、吐水・止水します。流量調節はできません。

② ストレーナーを掃除する

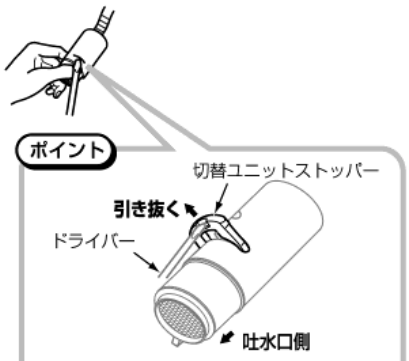
注 意 作動確認後、**ストレーナーを必ず掃除**してください。
※ストレーナーが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

切替ユニットのストレーナーの掃除

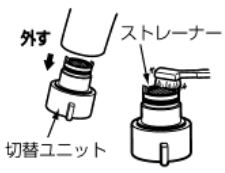
※不意に吐水しないように、レバーハンドルを閉じてから作業を行ってください。

1 ハンドシャワーを引き出す。

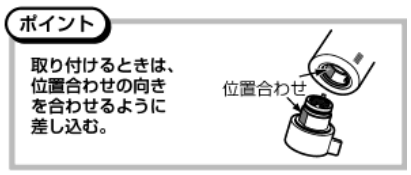
2 裏側にある切替ユニットストッパーをマイナスドライバーなどで引き抜く。

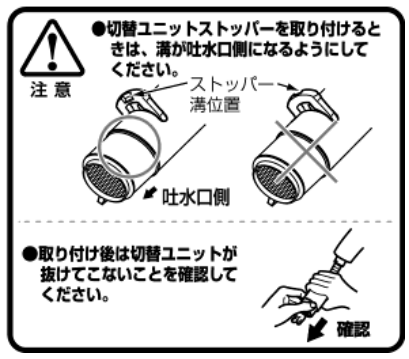


3 切替ユニットを外して、ストレーナーに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



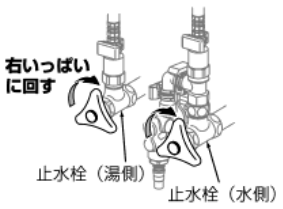
4 切替ユニットを取り付ける。

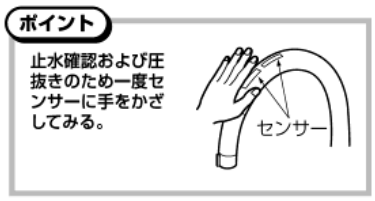




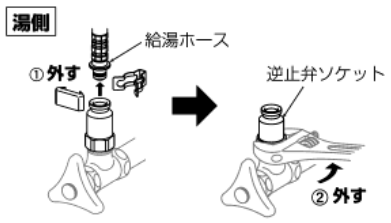
ストレーナー付パッキンの掃除

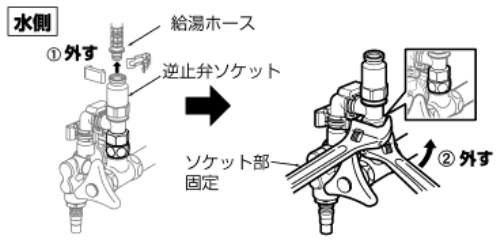
1 止水栓を閉じる（右いっぱいに回す）



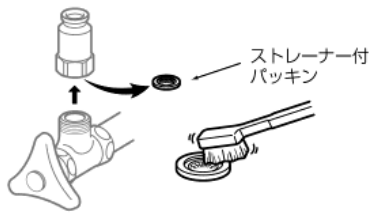


2 給水・給湯ホースを外してから逆止弁ソケットを外す。

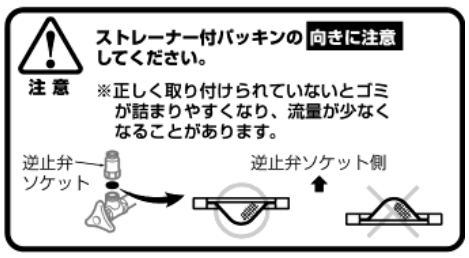




3 ストレーナー付パッキンのゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

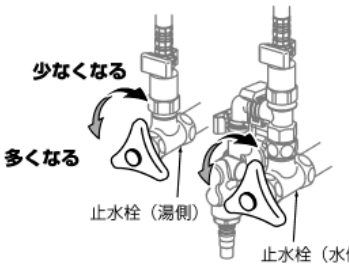


4 逆止弁ソケットを止水栓に固定する。



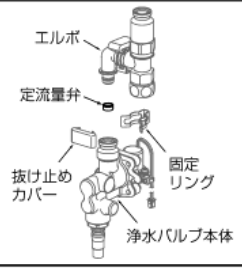
③ 流量を調節する

1 レバーハンドルを全開にしたときスポット微細シャワーの流量が8L/min(※)を超える場合は、止水栓で流量調節をしてください。
(※：1リットルの容器をいっぱいにするのに約9秒)



ポイント
- 浄水の流量は、定流量弁を装着していますので、一定以上の流量(4L/min以上)は出ません。
- 湯と水の流量が同じになるよう調節する。

水圧0.07MPa以下で、浄水の流量が不足する場合は定流量弁を外してください



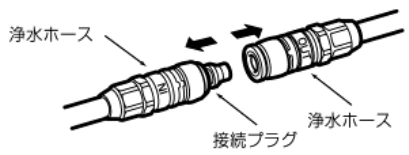
ポイント
水圧0.07MPaのとき湯水の流量は、5.0L/minです。(1Lの容器をいっぱいにするのに約12秒)

④ お客さまが施工後すぐに使用しない場合

1 お客さまが施工後すぐに使用しない場合は、ACアダプターを抜くか、もしくはブレーカーを落とす。
※浄水カートリッジは取り付けずに、そのままお客さまにお渡ししてください。

⑤ お客さまが施工後すぐに使用する場合

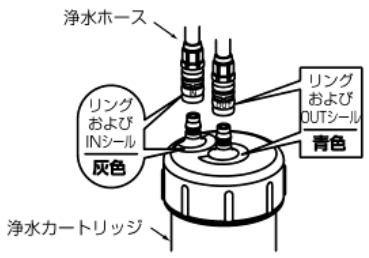
1 浄水ホースを接続プラグから外す。



接続プラグ
※接続プラグは、浄水カートリッジ交換時、および浄水カートリッジをご使用にならない場合に使用しますので、施工説明書、取扱説明書とともにお客さまにお渡ししてください。

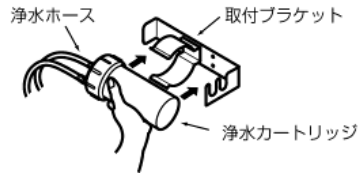
2 浄水カートリッジのプラグ先端の保護キャップを外す。

3 浄水カートリッジに貼ってあるシールの色と浄水ホースのワンタッチジョイントのリングの**色を合わせて**接続する。



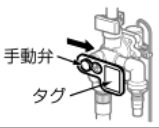
4 浄水カートリッジを取付ブラケットに固定する。

注 意 浄水ホースが折れ曲がったり、ねじれないように注意してください。
※漏水の原因になります。



5. 引渡前の確認

注 意 電磁弁部の手動弁を左いっぱいに回した状態で、タグをしっかり挿し込んでください。
※タグがしっかり挿し込まれていないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。



お客さまに引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。

現 象	点 検 内 容	点検箇所	処 置	参 照 項 目
吐水しない	止水栓は開いているか？	ー	止水栓を開く。	施工後の調節「流量を調節する」
	コンセントに電気がきていないまたは停電中ではないか？	J	ブレーカーを確認する。 *停電の場合、手動弁を開く（右いっぱいに回す）と吐水します。停電が解除されたら手動弁を閉じて（左いっぱいに回す）ください。	取扱説明書「停電および故障時の応急処置」
	ACアダプターがコンセントに差し込まれているか？	I	ACアダプターをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部を接続する」
	センサーの表面が汚れていないか？	E	汚れをふきとる。※1	
	コネクターが外れていないか？	H	コネクターを接続する。	
	断水中ではないか？	ー	回復するまで待つ。	
	逆止弁が壊れていないか？（凍結等により）	K	逆止弁を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
湯水が吐水しない	レバーハンドルは開いているか？	B	レバーハンドルを開く。	
流量が少ない	圧力は十分か？	ー	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	止水栓は十分開いているか？	ー	止水栓を十分開く。	施工後の調節「流量を調節する」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか？	F・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナーを掃除する」
	配管途中に大きな抵抗はないか？	ー	抵抗となる障害物を取り除く。	
湯水の流量が少ない	レバーハンドルを絞りすぎていないか？	B	レバーハンドルを開く。	
止水しない※2	ゴミかみはないか？	D	ゴミ等を水で洗い流す。	
	キズはないか？	D	キズがあれば部品を交換する。	
	ゆるみはないか？	C	カートリッジ固定ナットを締める。締め過ぎるとレバーハンドルが重くなることがあります。	
	センサーの感知エリア内に障害物はないか？	E	障害物を取り除く。	施工の前に「施工完了図」 施工後の調節「作動確認する」
	センサーの表面が汚れていないか？	E	汚れをふきとる。※1	
湯水が止水しない	手動弁が開いてないか？	J	手動弁を閉じる。（左いっぱいに回す）	
湯水の逆流がある	逆止弁は正常か？（ゴミ、砂かみはないか？ Oリングにキズはないか？）	K	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
希望の温度が得られない	圧力は十分か？	ー	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	流量調節はよいか？	ー	適正流量に調節する。	施工後の調節「流量を調節する」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか？	F・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナーを掃除する」
	浄水は水のみ使用可能です。レバーハンドルでは浄水の温度は調節できません。	ー	ー	
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか？	G	ナットをしっかり締める。	
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか？	A	ねじをしっかり締める。	

注 意 ※1 センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズを付けないようにしてください。
※キズが付くと正常に作動しなくなる場合があります。

※2 以下の現象は、故障ではありません。
水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますが、切替ユニットの内部に溜まった少量の水が排出されるためで、故障ではありません。

分解図